

「上部消化管 X 線診断ブレイクスルー」

齋田 幸久 著

山梨医科大学教授・放射線科

荒 木 力

とにかく消化管造影のテキストブックという点、専門家特有の特殊用語という点、感性先行型定義不明瞭な業界用語が続出して、初心者には近寄り難い雰囲気があるものが多い。本書も初心者を対象とした上部消化管造影のテキストであるが、違和感のない日本語で書かれており誰でも親しみを持って通読できる本である。これは、著者が画像診断学全般を修得したうえで消化管を専門としているからであろう。私自身も一気に読み切ってしまった。偶々、本教室の研修医が本書を既に購入していたので、彼の読後感想と私自身の感想を以下にまとめた。

(1) 立位充盈正面像の読影方法について詳しく記述されている。とにかく二重造影にすぐ目が移ってしまいがちであるが、立位充盈正面像の重要性を強調しており、読影の基本姿勢を再認識した。

(2) 設問形式になっているのが

よい。また、設問の解説が必ず次の頁になるようにレイアウトされているので、解説を読む前に自分でよく考えることができる。解答や解説がすぐ目の前にあると、すぐそれを見てしまっただけで自分で考えない、したがって読影能力がつかない、応用が利かないという結果に陥りやすいものである。

(3) 付録 1, 2 の読影の手順、レポートの書き方がまとまっていてわかりやすい。付録 3 として撮影の手順がほしい。

(4) シェーマや写真にももう少し矢印などを増やしてほしい。本文の説明だけでは初心者にはわかりにくいところがある。

(5) 説明文中の重要な部分や key word を太字やアンダーラインで強調してほしい。

(6) もっと症例数が多くてもよいのではないか。同じ疾患でも、重要な疾患については繰り返して出て

きてもよいと思う。

(7) 所々に“エピソードが挿入されており、読んでいても飽きない。

(8) 頁数が少なく、値段も手頃で購入しやすい。

(9) 注腸造影についても、出版してほしい。

以上からわかるように、質問形式で学ばせることを基本とし、最後に読影の手順とレポートの書き方をまとめ、所々に心温まるエピソードが挿入されているテキストブックである。これから上部消化管造影検査を修得しようとする医学生、研修医、もう一度復習しようとする一般医師、放射線科医や消化器科医にぜひ初めに読んでほしい一冊である。

● B5 頁 120 図 62 写真 101
1998 定価(本体 3,000 円+税)
〒400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)